



凛として

長江プライド「当たり前のことを当たり前」

令和6年1月15日(月) 第4号(特別号)



「そうそう(想像・創造)」そして「真・善・美」



新年 明けまして おめでとうございます

というご挨拶が妥当であるかどうか悩む新年の幕開けとなりました。

1月1日の能登半島地震(16時10分頃)、翌日の羽田空港事故においてお亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。また、災害からの復旧や復興が進み、1日もはやく日常生活を取り戻されることを願っております。

心痛む出来事が続き複雑な心境ではありますが、新年に当たり長江中学校関係者の皆様の旧年中の本校教育活動に対するご支援ご協力に深く感謝申し上げますとともに、本年のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

生徒の皆さん、年度の締めくくりである三学期が始まりました。令和五年度のまとめの学期であるとともに、来年度に向かって準備を行う大切な学期でもあります。飛行機に例えるならば、飛び立つために必要な助走期間ということなのです。

進学・進級の4月によりスタートを切るためにも、「夢」を仲間と語り合いながら、その「夢」を夢から実現するための「目標」に変え、共に切磋琢磨しながら一日一日を大切に過ごしてもらいたいと思っています。

令和6年(2024年)は甲辰(きのえたつ)の年となります。「甲」とは“甲乙丙丁～癸”の始まりであり、生命や物事の始まりととらえることができます。中国の『漢書 律曆志』では、「辰」は「ふるう、ととのう」を意味する「振」で、陽気が動いて万物が振動し、草木もよく成長して形がととのった状態を表すと解釈されています。この二つが合わさる甲辰は、**新しいことを始めて成功する、いままで準備してきたことが形になる**といった、縁起のよい年になると考えられています。



そこで、新年のスタートに当たり、次の二つのことをお願いします。

一つは、「とにかく、考えてみることであり。工夫してみることであり。そして、やってみることであり。失敗すればやり直せばいい。」(松下幸之助)

自分に何ができるかは、自分以外の者にはわからないと言いますが、自分でもやってみるまではわからないものではないでしょうか?! また物事がはじめてから全てが上手くいかないのは、もしはじめてから上手くいったら何も学べないからなのだと思います。失敗からいっぱい学び、うんと工夫して成長しましょう。

そのために**自分自身で深く考える**ことです。そして、自分にはできないかも知れないという恐れに真正面から立ち向かってほしいと思います。そうすることにより、“強さ”と

～Change(チェンジ:変化) & Challenge(チャレンジ:挑戦)～

“自信”と“経験”を勝ち取ることができるのです。結果、充実した人生へとつながります。夢実現に向けたプロセスの努力は、長い人生において壁にぶつかったとき、ある意味結果よりも自分を支えてくれることでしょう。

皆さんには、本年を『**『勇気』を持って『決断』し、あらゆることに大胆に挑戦し、新たな時代を切り拓くための一年**』にしてもらいたいと思っています。

「Boys, be ambitious」(ウィリアム・スミス・クラーク)

少年よ、大志を抱け。

金や利己心を求める大志ではなく、名声というつかの間のものを求める大志でもない。

人としてあるべき全てのものを求める大志を抱け。

もう一つは、始業式でお話した「**相手意識をもって、物事を多面的・多角的にみたり、「真善美」のわかる“感性”を磨き上げたりするなど、自らを高めていく一年**」にしてもらいたいと思っています。

社会が大きく変わっていきこうとしている今、私たち自身も変わらなければなりません。そのためには、相手意識を持ち、物事の一面にとらわれず、様々な角度から物事を見る目を持つことは、**適切な判断を可能にするとともに、悩みにとらわれない心を持つこと**にもつながります。

「視点を変えれば、景色が変わる」

仲間や地域の方々と協働し、ともに未来を切り拓いていきましょう。

《物事の一面にとらわれず、様々な角度から物事を見よう》

「虫の目」: 虫のように近いところから**物事を注意深く見る** 視点

「鳥の目」: 空を飛ぶ鳥のように**物事を高いところから俯瞰する** 視点

「魚の目」: 魚が水の流れに従って泳ぐように**時流を読む** 視点

「**うつくしいものを美しいと思える あなたのところがうつくしい**」(相田みつを)

「**しんじつだけが魂をうつ**」(相田みつを)

そして、日常生活のあらゆる場面において、生徒同士や生徒と教職員間で『真・善・美』に基づく〈善なる魂と魂〉の共鳴に想像力を働かせ、二つの詩にあるような感性にあふれる教育環境づくりにも取り組んでいきましょう。

『真・善・美』とは、人間の理想の姿です。真偽、善悪、美醜の規準を正しく身に付けるということです。今自分がしている言動が、他人の眼にどう映っているのか。それは真実(まこと)か偽り(うそ)か、善いことか悪いことか、美しい姿であるのか醜い姿であるのか。例えば、「人が見ていないから」「人もしているから」「ばれなければいい」「自分さえよければ」などと、正しくないこと、美しくないことをしていないだろうか。たとえ誰かが見ていないとしても、**自分の心の目で自分の姿をしっかりと見つめることができる力**をすべての生徒に正しく身に付けて欲しいと願っています。

そして、尾道市が目指している「魅力ある人材が育ち、地域に愛着と誇りを持てるまちづくり」の創造に向け、**長江地域を大切に思い、自分自身・友だち・家族・社会のことを深く考え、日々の生活を充実させていきましょう。**

保護者、地域の皆様、これからも地域の宝である生徒の健やかな成長のために本校教職員一同力を合わせて取り組んで参りますので、本年も昨年同様、よろしくお願いいたします。

令和六年一月

尾道市立長江中学校長 播磨 寛宗

